4．プライバシーを守るために

考えて見よう！ プライバシーを守るためにわたしたちができることに、どんなことがあるだろう？

●なにがプライバシーとなりうるか、常識的なものは知っておく。（例．年齢、職業、体重、学歴・・・）

●人によってプライバシーと感じる範囲はことなることを知っておく。

●自らの会話の中味に意識的になる。

●必要な情報を最低限度だけ取り扱うようにする。
→個人に関する情報が増えれば増えるほど、個人が特定されていく。

●自分にとって本当に必要な情報かどうかを考える。
→日本人は一般に知らなくてもよい情報から、まず聞く習慣がある

●なぜ知りたいと思うのか、興味本位ではないかを自分自身に問う。

●相手の話が人のプライバシーにふれるとき、「話したくない」あるいは「聞きたくない」と言っても失礼ではない。

●会話においては基本的に「I」と「YOU」とで話をする。
→日本語は主語を使わずに会話ができるので、無責任になりやすい。

●実際に出会うその人の「存在」こそが重要なのであり、その人に関する情報に左右されないことが大切

●プライバシー漏洩により被った不利益は、補償されてしかるべき
→記憶は消すことができない。金銭による補償しかない。HIV 感染者のプライバシー裁判はまず原告の勝訴で終わる

●知り得たプライバシーは一生守りつづける義務がある。

●どの立場においても、自分に関係のないことはきかない。

●話をするときは、第三者に聞こえないように配慮する。

●他の人が興味を持つような話し方はしない。良い意味で事務的に話す。

●指示代名詞（こそあど言葉）を上手に使って話をする。

●親しい関係であっても、きく必要のないことはきかない。

●自分のプライバシーは自分自身が守る、という意識をもつ。

●サポートを受ける立場の人にも、自分や他人のプライバシーを守るように伝える。

考えて見よう！ プライバシーを守りながら、人と会話するときに使える話題として何があるでしょう？　できるだけたくさん探してみましょう。

状　況　会　話

プライバシーを守り、相手を傷つけないための会話の方法として、状況会話というものがあります。状況会話とは、人に関わらない事柄をテーマとした会話です。たとえば、「天気」や「天候」の話は人のプライバシーにふれません。状況会話を学び実践することで、プライバシーに対してより敏感な感性を育みましょう。

ペアワーク　「状況会話をしてみよう」

二人一組になって状況会話をしてみましょう。少なくとも20分以上は続けてみましょう。

セルフチェックシート

●なぜ私は，この人物がHIVに感染しているのかどうかを知りたいのだろうか？

●私が話そうとしている人物には、正当に考えて“知る必要性”があるのだろうか？

●関わっている人物の身元を明かさずには扱えない、というのは確かだろうか？

●それぞれの場合に応じて、情報を明かすのに十分なインフォームドコンセントが行われているだろうか？

●情報を受ける側が、今度は確実に秘密を守ることができるだろうか？

●記録する意味を十分に考え、秘密を守るために最善の方法をとっただろうか？

Confidentiality
プライバシーを守ること

PART 2
ケーススタディ

HIV/AIDS に関する活動や仕事にかかわるスタッフやボランティアにとって、なによりも大切なのは「プライバシーを守る」ことでしょう。それは感染者や患者のプライバシーはむろんのこと、活動に関わるすべての人のプライバシーです。
プライバシー感覚は、頭で分かっているだけではなかなか身につきません。具体的なシチュエーションにおいて、どう振舞うかが問われるからです。

PART２では、プライバシーが問題となるような具体的な事例をたくさん取り上げています。これらは HIV と人権・情報センターのスタッフやボランティアさんたちが、実際の活動の場で経験してきたことをもとにしています。

クライアントの方々をはじめ、ボランティア活動に関わる多くの方たちから学んだことが、一人一人の存在が大切にされ尊重される「共に生きる社会」をめざす人々の参考になることを願っています。

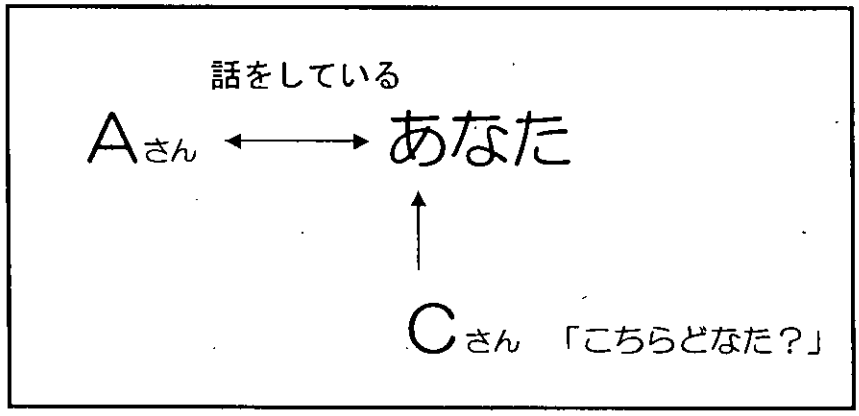
1．事例を通して（ケーススタディ）

A．ボランティア活動や仕事の現場で人と人が出会う時

ケース①

あなたがＡさんと話をしていると、Ｃさんがあなたに「こちらはどなたですか？」と聞きました。

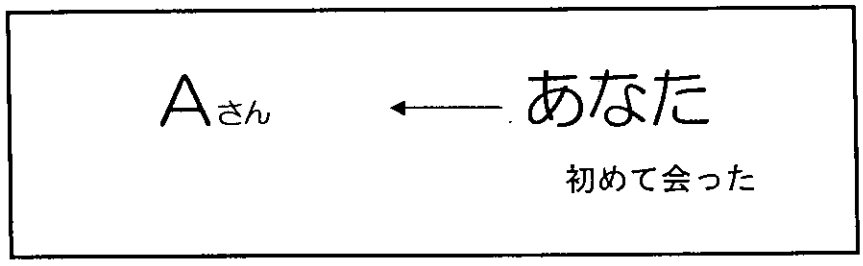
Ｑ：あなたはどのように対応しますか？



ケース②

感染者と思われるAさんと初めて会ってあいさつをすることになりました。

Q. あなたは、どのようにあいさつをします？



ケース③

ボランティア仲間との飲み会で、誰かが「皆さん、自己紹介をしませんか。では私から…。私は☆☆といいます。よろしく。」と自分の本名を名乗りました。

Q. その時、あなたはどうしますか。

ケース④

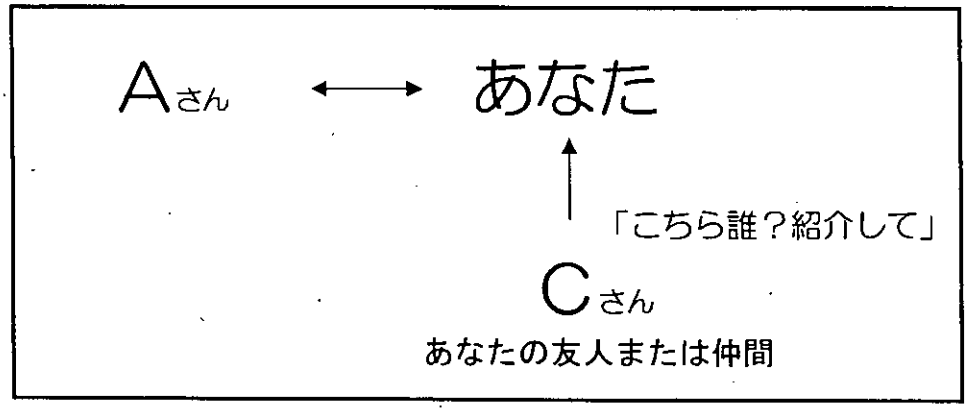
ボランティア仲間との飲み会に、カメラを持ってきた人がいました。

Q．その時、あなたはどうしますか。

ケース⑤

あなたが感染者のAさんと歩いている時、偶然に、友人またはボランティア活動のメンバーであるCさんに出会って、「こちらは誰？紹介してほしい。」と言われました。

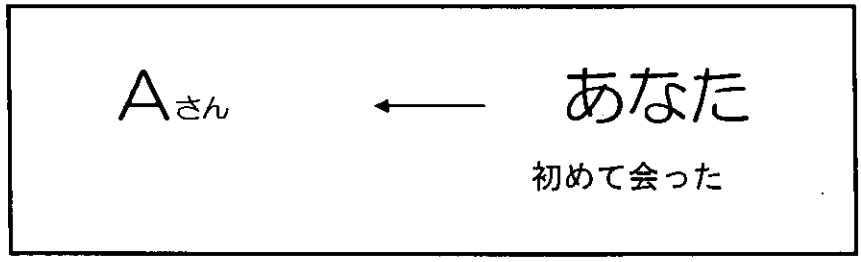
Q. あなたは、どのように対応しますか？



ケース⑥

サポートのために、初めて感染者Ａさんと会うことになりました。

Ｑ．出会って最初の言葉や話題はどうしたらよいですか？



ケース⑦

ボランティア活動の帰りに、皆で飲みに行きました。その中で、とても落ち込んでいる感染者の人がいました。皆が楽しそうに大騒ぎする一方で、その人はだんだん黙りこみはじめました。

Q. その時、あなたはどうしますか？

ケース⑧

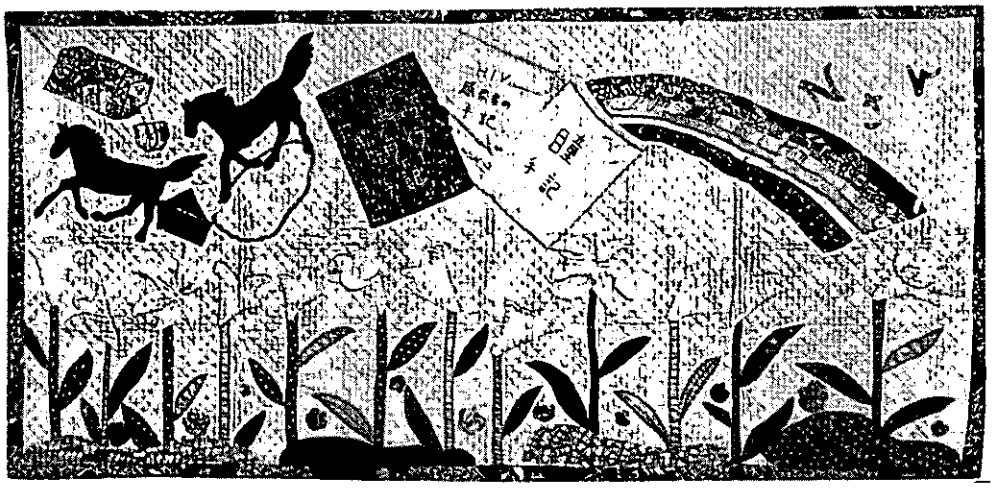
あなたが AIDS に関わる活動（仕事）をしていると知った友人や知人から「感染者を紹介してほしい。」「感染者の話を聞きたい。」と頼まれました。

Q．その時、あなたはどうしますか？

ケース⑨

ボランティア活動の場で、皆でメモリアルキルトを作っていました。
そこへ外部の人が訪ねてきて、「これは何ですか？」と聞きました。

Q. その時、あなたはどうしますか？

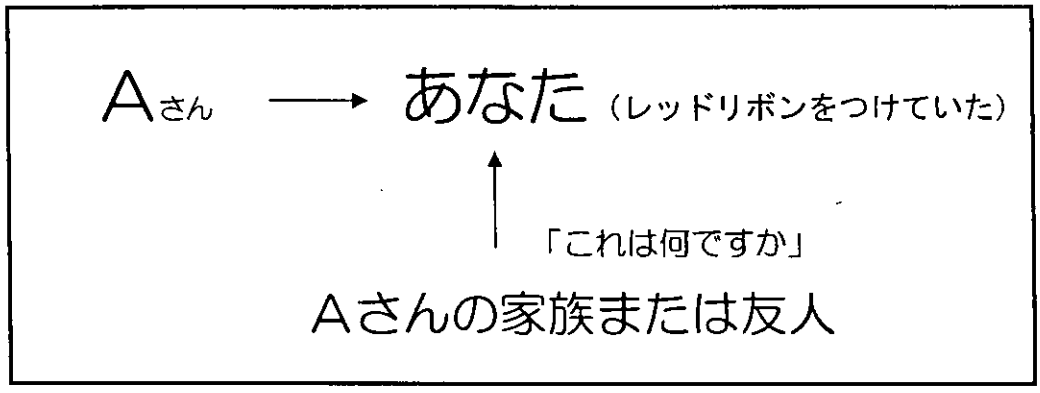


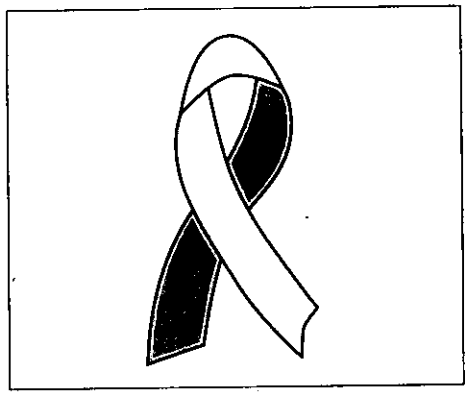
メモリアルキルト･･･AIDS で亡くなった人を追悼するための布。その方がいつも着ていた服や愛用品などを、親しい家族や友人たちが縫い付ける。

ケース⑩

あなたが感染者Ａさんと一緒にいる時、あなたのつけていたレッドリボンを見て、Ａさんの家族または友人（Ａさんが感染していることを知っているかどうかわからない）が「それは何ですか？」と聞いてきました。

Ｑ．あなたは、どのように対応しますか？





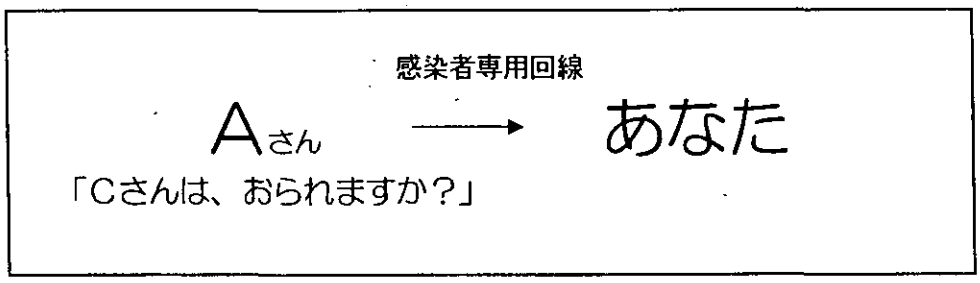
レッドリボン･･･HIV/AIDSに対する理解や支援をあらわすシンボルとして使われる。

B．業務におけるプライバシーへの配慮

ケース①

「感染者専用回線」に電話がかかってきたので、あなたが取ったところ、感染者Aさんからでした。Aさんは、「Cさんは、おられますか？」と言いました。

Q：あなたはどのように対応しますか？



〈 Cさんがいる場合〉

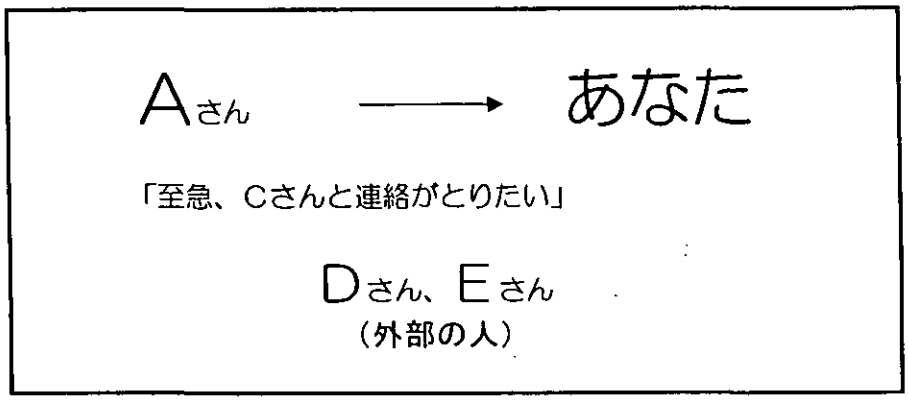
〈 Cさんがいない場合〉 ※すぐには連絡が取れない場合

〈 Cさんが他のところにいる場合〉 ※連絡が取れそうな場合

ケース②

外部の人がいる事務所（皆が集まっている場）に、ケア･サポートを受けている感染者Ａさんから、「至急Ｃさん（ケア･サポートの担当者）と連絡がとりたい。」という電話が入りました。

Ｑ．電話を取ったあなたは、どのように対応しますか？



＜ Ｃさんがいる場合＞

＜ Ｃさんがいない場合＞　※すぐには連絡が取れない場合

＜ Ｃさんが他のところにいる場合＞　※連絡が取れそうな場合